

日本聖公会の基礎とも言えるのが綱憲と呼ばれるもので、以下のように定められています。聖書の重要性についても、ここに明記されています。

日本聖公会は全世界の聖公会と共に次の聖公会綱憲を遵奉する。

- 第1 旧約および新約の聖書を受け、之を神の啓示にして救を得る要道を悉く載せたものと信ずる。
- 第2 ニケヤ信経及び使徒信経に示されたる信仰の道を公認する。
- 第3 主イエス・キリストの命じ給うた教理を説き、其の自ら立て給うた洗礼及び聖餐の2聖奠を行い、且つその訓戒を遵奉する。
- 第4 使徒時代より継紹したる主教、司祭、執事の3職位を確守する。

本日は降臨節第二主日です。本日は毎年聖書の主日と定められており、私達の信仰生活に不可欠な聖書について心を向け学ぶ時となっております。

聖書は皆様よくご存じのように旧約聖書三九巻と新約聖書二七巻からなっております。旧約聖書は紀元前八世紀から二世紀頃にかけて書かれたイスラエルの歴史の中で神どのように働かれたか、神とイスラエルの関係がどのようなことであったのかについて記した書物であります。旧約聖書で扱われている年代はもっと古くからのものでありますが、実際に文書としてまとめられたのは先程のような年代になります。イスラエルの歴史は決して楽な豊かなことばかりではありませんでした。飢饉のため一時イスラエルを出てエジプトで生活しなければならぬ時もありました。エジプトで奴隷にされ、自由と全く奪われた時もありました。四〇年にわたる旅の末、ようやく故郷に戻ることができたものの、人々は近隣諸国からの干渉と戦わねばなりませんでした。イスラエルはその後力をつけて王国となりました。そこで大きな繁栄の時代を迎えることになるのですが、それも長くは続かず王国は分裂し、やがて他国に滅ぼされてしまいました。旧約聖書にはこのような歴史が数多く記されているのです。それは神が確かにこの世に働きかけておられること、神は人間が正しい決断を選び、御心にかなう業をなす時に祝福を与えられ、繁栄をもたらしてくださるが、罪のうちに歩み、神の前に悪を行うならば国を滅ぼして反省を求められる、そういう事実を描いているのです。さらに人間が大変に罪深いこと、その人間は本来ならば神の前に立つことは出来ず、滅びてしまう存在として描かれておりま

す。旧約聖書の時代には、人間が罪を犯した時、その償いをしなければ赦されないのでした。

さて、旧約聖書と新約聖書の境目は、大きく言って主イエスの誕生と見ていいでしょう。旧約と新約で用いられておりますこの約という字は、約束を表しています。すなわち主イエスの誕生によって、神と人間が、古い約束から新しい約束へと移り変わっていったのです。さきほども申しましたように神は人間の罪を償わなければ赦されませんでした。主イエスは私たちの罪を負って十字架にかかってくださいました。そして神の前に完全な償いを成し遂げてくださったのです。こうして私たちは自分が負いきれない罪におしつぶされることなく、悔い改めの心を持っていれば神に迎え入れられる者とされたのです。そして信仰によって義とされる、そういう道を私たちに示してくださいました。新約聖書は主イエスの十字架が神の前に完全なものであったこと、人間がそれによってすべて神に愛されている者として赦されたのであること、そして私たちが待ち望む永遠の命は信仰によって与えられるのであることが示されたのです。その神の愛に対して私たちは己の悪をしっかりと見つめ、信仰による戦を挑むべきことが教えられております。

聖書はこのように世界の初めからこの世に働きかけておられる神を指し示し、神によって実現された救いを証しています。聖書なくしては私たちの信仰生活も、礼拝も、そして教会もありえないのです。聖書はすべてのキリスト者にとって不可欠な大切な存在です。本日はそのことをよく覚えて、命を与えられる神を指し示す聖書を私たちの中で新たな存在にしていきたいものであります。

さて、私たちの聖書にはもう一つ、旧約聖書続編というのがあります。本日旧約聖書に代えて読まれましたバルク書は、旧約続編の一書物です。これは時代的には旧約聖書と新約聖書の間にかかれたものと言われております。旧約聖書続編の捉え方は様々で、カトリック教会では聖書に準ずるものとして考えられていますが、プロテスタント諸教会では聖書とは認めない考えです。私たちの聖公会では有益な書物として礼拝の中で読むけれども、ここからいかなる教理や教えは持たないという考えです。この続編について私たちはなかなか馴染む機会も少ないですが、礼拝などに用いる度に関心を深め、その教えにも耳を傾けたいものであります。